ナラ枯れの発生消長調査をしています

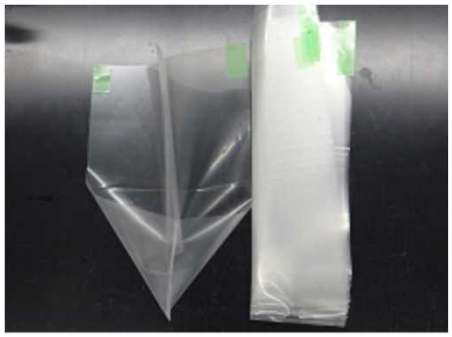
日　時：令和４年６月～１０月
場　所：まんのう町４か所、琴平町１か所
参加者：森林センター職員、西部林業事務所職員

① ナラ枯れとは体長５mmほどのカシノナガキクイムシが運ぶ病原菌によりナラ類やシイ・カシ類の樹木が枯れる伝染病です。

② 香川県では令和元年に小豆島で、令和３年にまんのう町で被害が確認されました。夏に赤く枯れるためよく目立ちます。

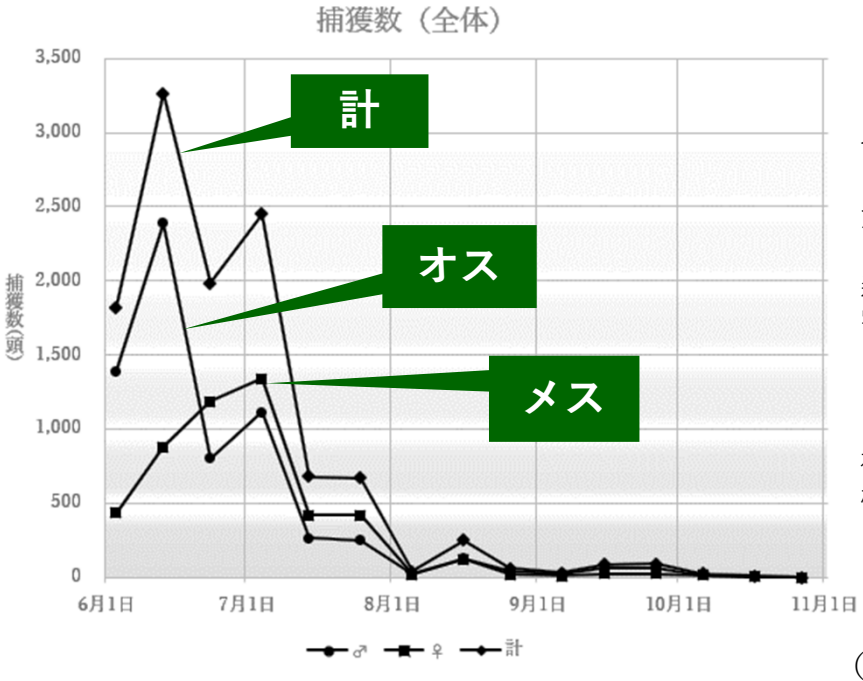
③ カシノナガキクイムシが穿入した後には、直径約1.5mmほどの爪楊枝が刺さる程度の穴ができ、木の根元には木くず（フラス）が溜まります。

④ カシノナガキクイムシの発生時期を把握するため、６月から10月にかけてトラップを仕掛け、約10日おきに発生量を調査しました。



⑤ 仕掛けたトラップは、職員で作成した「トランク・ウインドウ・トラップ（ＴＷＴ）」を使用しました。

⑥ トラップに捕獲されたカシノナガキクイムシです。森林センターに持ち帰り、発生量を計測しました。



【調査結果】

今回の調査では、発生のピークが６月と７月に確認できました。発生は降雨や気温などに左右されるようです。

森林センターでは引き続き、ナラ枯れ被害の発生状況調査や被害軽減となる技術の開発に取り組んでいく予定です。

また、ナラ枯れ被害の拡大防止のため、被害に遭う前にナラ類、シイ・カシ類の樹木を伐採し、材として利用することなども検討する必要があります。

（香川県森林センター　林業普及指導員）